

木津川沿いを歩く



スタート地点 近鉄 狛田駅

近鉄狛田駅→①春日神社→②百久保地先遺跡(出土遺物)→③木津川上流浄化センター→むくのきセンター屋外
→④祝園神社→武埴安彦破斬旧跡の石碑→⑤常念寺→近鉄祝園駅

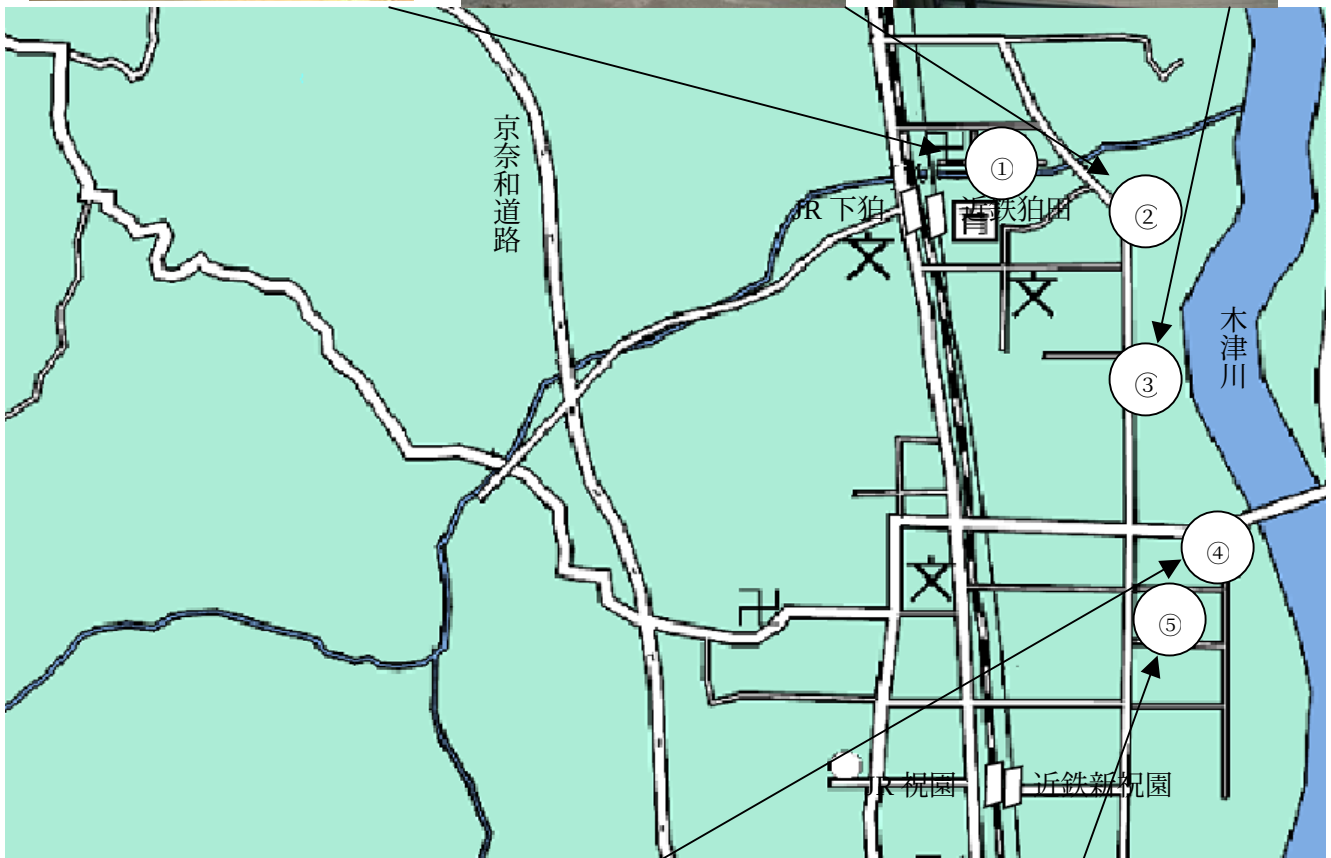
① 春日神社



② 百久保地先遺跡(出土遺物)



③ 木津川上流浄化センター



④ 祝園神社



⑤ 常念寺



1. 春日神社



本殿・正面



本殿・側面

由緒:

大同2年(807年)平安時代前期、奈良春日神社(現春日大社の分社(当時は小さな祠程度の社と推定される))として建立し氏神としたと伝えられています。

文化財:

本殿の東側に立つ石燈籠は 昭和13年6月、重要美術品の指定を受けており又 拝殿に掲げられている絵馬にも文化的価値の多いものが多い。

社の管理:

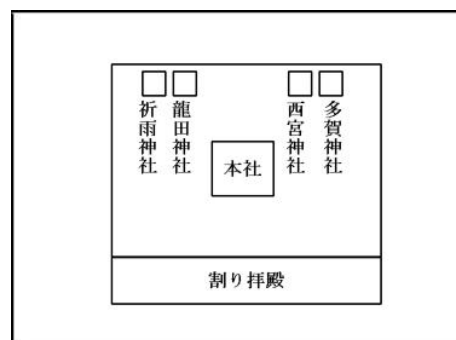
宮座は4組あって「大夫」が36人あり、36人衆と呼ばれていましたが現在は2組(本座・真座)で宮座の「大夫」は座子氏子を代表して、宮司と共に祭祀に参列します。また交代で宮守(禰宜)として一年間出仕して宮司を補佐すると共に、社の管理にあたります。

行事:

- ・例祭日 10月17日
- ・弓始式 1月10日
- ・祈年祭 2月11日
- ・八朔 8月31日
- ・新嘗祭 11月3日



割り拝殿



境内外略

2. 百久保地先遺跡



遺跡の概要

百久保地先遺跡は本町の東端、大字下狛小字百久保の地先河川敷内に所在します。遺跡は、東西約 50m、南北約 150m です。

調査の概要

調査は昭和 60 年 11 月 16 日から開始し石造物検出ののち 12 月 26 日終了しました。

調査地では埋蔵施設等の遺構は一切検出されませんでした。おそらく長年にわたる木津川の侵食・堆積作用の結果、埋蔵施設は流出し、石造物やその他若干の遺物のみが元の位置近くに残されたのです。

出土遺物

- ・ 土器・瓦類 中世墓地に関係するもの
- ・ 石造物 組み合わせ式五輪塔・一石五輪塔・尖頭状五輪板碑・
宝篋印塔・石仏・石仏屋根・石仏台座
- ・ 銭貨 墓地の冥銭・奉賽銭と思われ 8 ヶ所から 12 種類 30 点
で国名は、北宋～明（铸造年は998年～1368年）

今回の調査が遺跡の一部にすぎなかったにもかかわらず、出土した石造物は320点にも及び、当遺跡がかなり規模の大きな墓地であったことが再認識され、当墓地はおよそ14世紀から16世紀中頃までの間に形成されたものと考えられます。

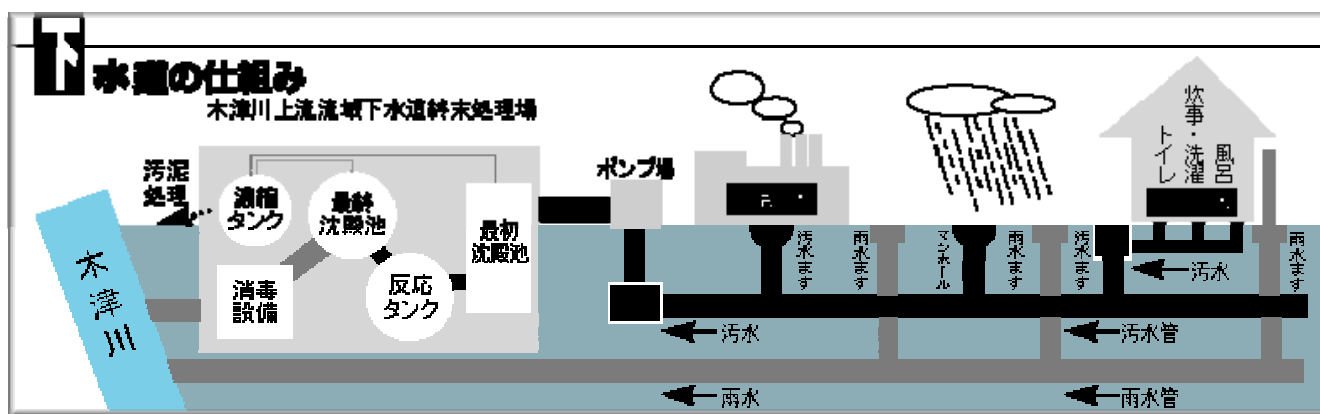
3. 木津川上流浄化センター

精華町の下水は「木津川上流流域下水道浄化センター」で処理されます。



流域下水道は、2つ以上のまちの下水を処理する広域的な下水道です。精華町と旧木津町を対象にした木津川上流流域下水道の浄化センターは、「凝集剤併用型循環式硝化脱窒法(酸素法)＋急速ろ過」という処理方法で生活排水に含まれる、窒素、りんなどを効率的に取り除いた後、高度処理をおこない、水をよりきれいにして川へもどします。

この施設の当面の処理人口は4万6,800人(処理能力は2万1,630立方メートル／日)ですが、施設がすべて完成すると15万6,000人分(処理能力は7万2,100立方メートル／日)の汚水进行处理することができます。



4. 祝園神社



祭神

奈良興福寺の支配下にあったので、江戸時代は春日社と称し、祭神も
あめのこやねのみこと たけみかづちのみこと ふ つ ぬしのみこと
天児屋根命、健御雷 命、経津主 命とされています。

由緒

式内社

神社の南に武埴安彦破斬旧跡の石碑がある。古事記によれば「崇神天皇
たけはにやすひこ
十年、孝元天皇と河内の青玉の女の波邇夜須毘売の間に生まれた建波邇
は に や す ひ め
夜須毘古が朝廷に反逆し、越の国を制圧に向かう大毘古 命 たけはに
やすひこの軍に敗れたとあり、その御魂鎮めのために四十八代称徳天皇の御代に創建されたとあり
お お び こ の み こ と
ます。

お祭

特殊神事「居籠祭」 正月（京都府無形民族文化財指定）

第一日 風呂井の儀 風呂の井と言う井戸で秘密の祝詞を奏し、玉串を納めます。

第二日 大松明を祭場に運ぶ。この時神主が鈴をならせるが、村中が消灯し一切の物音を謹慎します。

第三日 氏子が竹の輪を曳き合う行事で、神を迎え豊かな稔りをもたらす予祝儀礼であります。



5. 常念寺



変革

常念寺の開基は不詳ですが天台宗に属し室町時代の創建とされる。

その後、融通念仏宗ゆうずうねんぶつに改められました(寺録による)。

寛政二年(1461)隋空恵順が中興、天宝四年(1833)円空隣粲が本堂と庫裡を再建して現在に至ります。

常念寺菩薩形立像(薬師堂本尊、重要文化財、町内最古)

木造(ケヤキ)、一木造しっぽく、漆箔しっぽく、彫眼。肉身部と着衣部の痕跡から、当初は漆箔像だったかとも考えられる。背面下半身に大きく内刳を入れ、蓋板を当てています。像高 169cm。

天冠台をつけ、宝冠をかぶり、上帛じょうはくと裳も(3段)を着け、天衣てんねを懸け、臂釧ひせんを付ける。左手を屈臂くつぴし、右手垂下し(両手先は後補)、立つ。

廃仏棄釈までは祝園神社(大字祝園小字杵ノ森)ははそのもりの神宮寺である薬師寺(現在は廃絶)の本尊でしたが、六尊坊(祝園神社内参籠所)さんろうを経て、常念寺に移されました。



エチケットを守りましょう！

- ◎ 交通ルールへの遵守。
- ◎ ゴミは捨てずに持ち帰る。
- ◎ 通りの道の草花は絶対に摘み取らない。
- ◎ トイレ等へ行ったり、途中で帰る場合は必ず引率者へ連絡する。